

2021 年度日本時間生物学会学術奨励賞 選考結果

選考経緯

基礎科学部門には4名、臨床・社会部門には2名の応募がありました。いずれの応募者も時間生物学に貢献のある立派な業績を有しておられ、非常にレベルの高いコンペになりました。業績の査読は委員長を含めて5名の選考委員が独立して行い、研究業績、将来性、学会活動歴等を勘案して総合的に評価しました。

審査の結果、以下の2名の方々に2021年度日本時間生物学会学術奨励賞を授与することが決定しました。

基礎科学部門

池上 啓介 氏

(愛知医科大学 医学部生理学講座)

基礎科学部門の受賞者である池上啓介氏は、魚類血管囊の季節センサー機能、光周反応における甲状腺刺激ホルモン TSH の糖鎖修飾の役割をはじめ時間生物学分野の発展に貢献する独自ので質の高い多くの業績があり、所属した4つの研究室で精力的に研究活動を継続している点が高く評価されました。国内外での学会発表、学術大会の運営や若手研究者の集い世話人、学会編集委員など学会活動への貢献度も高く、本学会の将来を担う有為な人材として学術奨励賞を授与するにふさわしいと評価されました。

臨床・社会部門

田原 優 氏

(早稲田大学 理工学術院)

臨床・社会部門の受賞者である田原 優氏については、時間栄養学を主たる研究領域とし、食事の頻度や栄養素、絶食時間の長さがリズム同調及ぼす影響に関する良質な基盤的研究を数多く行われました。加えて時間制限給餌による神経変性疾患の予防効果など臨床への橋渡し研究も積極的に進めている点が高く評価されました。また、田原氏も学術大会の運営や若手研究者の集い世話人など学会活動への貢献が大きいことは皆さんよくご存じの通りです。本学会の将来を担う有為な人材として学術奨励賞を授与するにふさわしいと評価されました。

2021 年度日本時間生物学会学術奨励賞 選考委員会 (五十音順)

小島志保子

駒田陽子

中村渉

沼田英治

三島和夫 (選考委員長)